

お知らせ

○きのこ観察会；10月19日（日曜日）は吹春先生指導のきのこ観察会です。携行品；弁当、飲み物、雨具、お椀、あればカメラ。9時30分第二駐車場集合。小雨決行。ご家族や友人の同伴を歓迎します。

○チェーンソー安全研修；11月29日（土曜日）ちば里山センター主催の安全研修が豊英島周辺で実施されます。受講希望者は上記の事務局アドレスまでお申し込みください。なお11月30日（日曜日）は定例活動日です。

○忘年会のご案内；11月29日（土曜日）17：30から約3時間、鎌田屋旅館、会費約1万円、日帰りは約5千円。参加希望者は上記事務局アドレス又は電話へお申し込みください。

○里山公開講座；「健康と癒しの森づくり」森林研究所において9月25日（木）～11月27日（木）6回にわたり実施されます。受講希望者はちば里山センターあて申込下さい。メール info@chiba-satoyama.net

TEL：0438-62-8895

活動の記録

9月15日（月・敬老の日）曇 「ニホンジカとの共生を目指す森づくり」活動体験 参加者総数31名

福島動物班長（県森林研究所）を講師に会員、各地の里山団体・森林インストラクターで活躍の方々、県民の森・ちば里山センター・県森林関係の方々から小6の生きもの大好き少年など多彩な顔触れのメンバーを迎え、ニホンジカの生息調査と痕跡調査、ニホンジカの生態や食害についての学習、食害状況の観察、昼食休憩をはさんで午後は植生保護柵設置やツノ砥



ぎ防止金網設置などの実技体験と多彩な活動に、充実の楽しい一日でした。この日最大の収穫は7班メンバーがホテイ岬でツノのある雄ジカ1頭発見したこと。昼休みは豊英島特製のアツアツ味噌汁をいただき、各地から参加された方々の各1分スピーチで交流を深めることも出来ました。午後の実技作業時には掛け声と歓声が飛び交い、森は活気に溢れていました。遠路ご参加の皆様お疲れ様でした。またのご参加をお待ちしています。

清和県民の森、ちば里山センター、県森林関係の方々のご支援ご協力有難うございました。

○調査要領の説明と調査班編成；調査開始前にシカを刺激しないため、島入口前で朝のミーティングと調査要領説明。福島講師から調査各班のコース、目撃情報や声、足音、足跡、フンなど痕跡の見方と記載方法の説明、各コース担当の7班に班分け。入林前に坂本代表と竹内中部林業事務所長の安全上の注意の後、5・6名ごとに時差を設けて吊橋を渡る。

○生息状況と痕跡の調査；崖下や尾根など健脚コースの第1・2班からホテイ岬コースの第7班まで、10：15一斉にスタート、木陰に潜んでいないか猟犬のように見渡し、耳を澄まし、足跡や糞を探しながら、40分間踏査。どの班も足跡やフレッシュな糞を数多く発見。第7班はホテイ岬にオスのニホンジカ1頭を確認。

○生息状況調査の報告とまとめ；上記のように、生息状況調査において角がある1頭のオスジカが記録された。角のポイント数は3~4ポイントとのことで、オスの成獣と思われる。発見された場所は、昨年オスジカがセンサーカメラで撮影されたマダケ林の近くであったことから、同一個体の可能性がある。なお、角は袋角だったようで、これから繁殖期に入りツノ砥ぎを行うと考えられた。また、ニホンジカ以外にはノウサギ2羽が島内で記録された。

○ニホンジカの生態と食害について講義；福島講師の教材「ニホンジカの生態」「ニホンジカとの共生を目指す森づくり・豊英島における挑戦」を用いてニホンジカの分類、亜種、特徴、食性、生態、植生に与える影響、房総半島における調査報告書に基づくシカの生息密度と低木層の種別優先度の関係、更に豊英島における森づくりの歩みとニホンジカとの共生を目指す森づくりへの挑戦など実践的かつ専門的な講義に参加者一同興味深く聴き入った。



○植生の食害状況観察；2グループに分かれて林内を一周し、低木や林床植物の食害の状況、防護ネットによる植生保護や亀甲金網による希少植物のスポット保護の状況など観察した。

○植生保護柵設置体験；午後の実技はホテイ岬に植生保護柵設置体験。予め線引きされた周囲約90mの区画に鋼鉄製支柱を高さ1.5mで2m間隔に設置し、そこに2m高の防護ネットを取り付け。障害になる倒木や竹を除伐する人、支柱を運び2m間隔に配置する人、垂直に支柱を立てる人、防護ネットを支柱に張りまわす人、ネットを支柱に結束する人などの掛け声が勢いよく飛び交い、一作業終わるごとに歓声が沸き起こる。今日初対面の人たちが、クモの巣だらけの竹藪の中の重労働に汗を流し、チームワーク・一体感が醸成されていることに気づく。数は力！人海作戦とチームワークで大作業を1時間余の短時間で完了。



○ツノ砥ぎ防止金網設置体験；説明とデモンストレーションの後、朝の調査7班に分かれ、被害の大きい巨木林（モミ混交林）の小径モミノキを亀甲金網で保護した。

○ホテイ岬の砂浜にシカの足跡；豊英湖の水位が下がっているため、ホテイ岬などに広い砂浜ができ、湖から上陸したニホンジカの大きな足跡がくっきりと確認されました。爪先の向きにより上陸時と入水時の足跡が確認できます。今後の踏査調査時には砂浜を観測地点に加える試みも必要ではと思われました。

○ミヤマガマズミの保護；食害を受けているミヤマガマズミの小径木2株を亀甲金網で囲み支柱で支え、折損部に包帯して添え木するなどして保護しました。ミヤマガマズミは千葉県レッドリストで重要保護植物(B)指定です。
(次ページに続く)

天候にも恵まれ、活動に最適の曇りでした。森の林床にはタマゴタケ、アカヤマドリや白いテングタケの仲間などたくさんの種類のきのこがいっぱいでした。村野さんは活動の合間にせっせとサンプルを収集していました。スズメバチにもあちこちで出逢いました。各地から参加くださった経験豊富な方々と一緒に学び、汗を流し、交流できて楽しい充実の一日でした。畑の野菜や芋にタケノコなど具沢山の美味しいみそ汁を準備下さった長谷川さん・久我さんご馳走様でした。有難うございました。

「ニホンジカとの共生をめざす森づくり」研修に参加して



習志野市谷津小学校6年 吉埜 朝洋^{ともひろ}

ニホンジカの調査という貴重な体験ができて良かったです。鹿が泳げることを知ったり、実際に涉ったらしき足跡をみつけたのでとてもびっくりしました。あと、皆さんに、鹿がどういうものを食べてるかを教えてもらったり、オクラの花を初めて食べさせてもらったり、親切にしてもらったことが、思い出に残りました。

習志野市 吉埜 拓史

前から房総のニホンジカには、たいへん興味があったので、今回は良いチャンスをいただき感謝しています。

「豊英島」という限られたフィールドで調査を体験して、鹿がたった数匹いるだけで、それでも自然にかなりインパクトを与えてしまうという関係を、すごくリアルに理解できました。「共生」は、口で言うほど、一筋縄ではない事も強く感じました。それでも、野生との共生は、絶対に不可欠です。今回を機会に、房総の森の大切な住人である鹿との共生について、もっと研究したいと思いました。

有難うございました



鴨川市 吉田 明子

初めて豊英島へ伺いました。とっても素敵なおところですね。自然環境はもちろん、楽しく活動されている皆様の笑顔や、様々な調査や活動など、たくさんの感激をいただきました。また、初めて食べたハナオクラに美味しいお味噌汁、ご馳走様でした。皆様、ありがとうございました。

「千年の森」今後の活動に期待

中部林業事務所長 竹内 進

豊英島での「ニホンジカとの共生を目指す森づくり」行事において大変お世話になりました。ありがとうございました。久しぶりに豊英島に伺い、着々と整備が進んでいる様子を目の当たりに拝見し、大変すばらしいと改めて感じました。「千年の森をつくる会」の皆様の並々ならぬ御苦労の賜と深く感じいった次第です。また、当日は飛び入りで参加し、しかも半日と勝手をさせていただいたにもかかわらずタケノコ汁とおにぎりまで御馳走になり、深く感謝しております。

現地の状況と、福島さんを初めとする皆様の解説を聞いて、水面で隔絶されており、人為が会員だけで森に対しての作業履歴が明確であるという立地条件が、植生の変化及びニホンジカやサルの影響、そのコントロールなどの試験地として非常に面白いのではと思いました。今後、今回のようなイベントを通じて、貴会の活動内容を県民に紹介する機会が多くもてるようになれば、県としても利点が大きいと思います。

貴会の活動が千葉県森林整備の起爆剤として大きな役割を果たすことをご期待申し上げますとともに、最後になりましたが、会員の皆様のますますの御活躍をお祈りします。